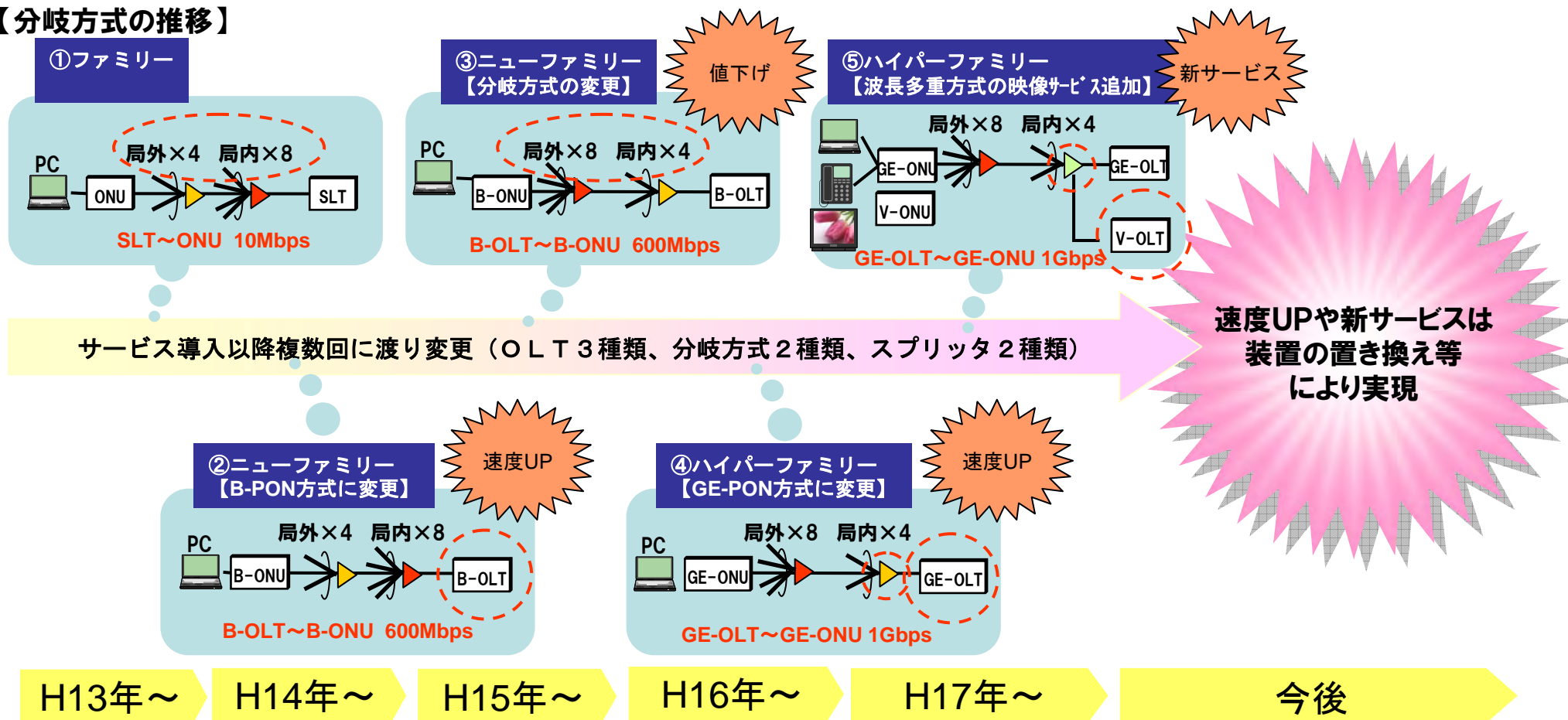


分岐方式は6年間で4回の変更

- 分岐方式は、提供開始後6年間で、都合4回（計7種類）にも及ぶ変更を行っております。
- したがって、現時点におけるOLT装置や分岐数を固定的に捉えOLT等を共用することは、速度アップや新サービスの提供が困難となり、お客様利便の向上に支障が生じます。
- 今後も速度アップや新サービスの提供にあたり、OLT装置等の変更が必要になると想定しております。

【分岐方式の推移】



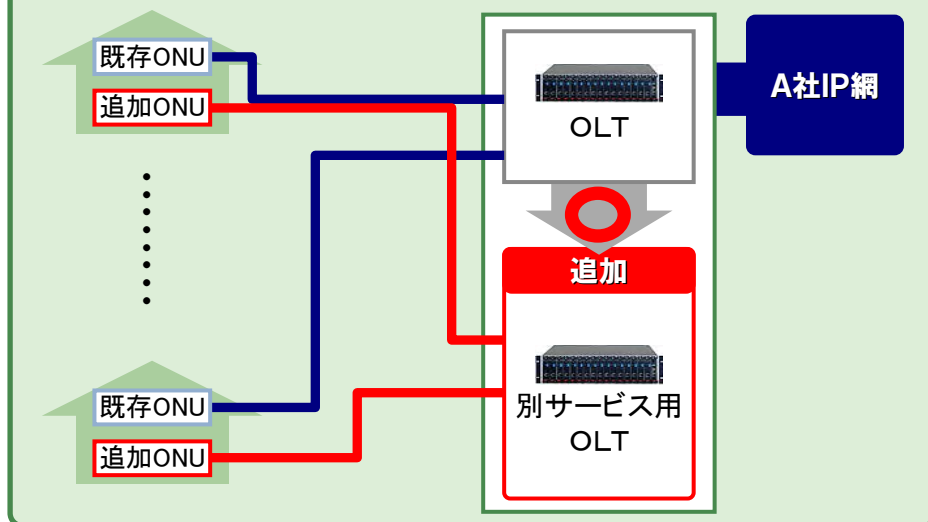
OLT等を共用した場合の具体的な問題

①新サービスのタイムリーな提供に支障

■新サービスの提供に必要なOLTの変更等について、関係事業者間の調整が必要となりますが、調整に時間を要するなどして、ユーザへのタイムリーな新サービスの提供に支障が生じます。

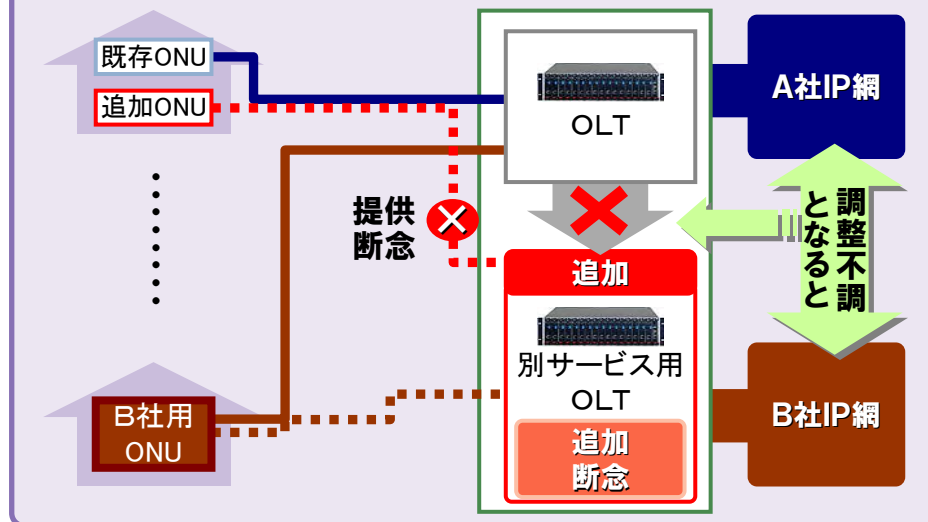
1社でOLT等を利用する場合

既存のOLTの更改・追加変更等が必要となる場合でも、迅速かつ柔軟なサービスの提供が可能



複数社でOLT等を共用する場合

ユーザへの影響の対処の仕方や、設備投資負担等で事業者間調整が必要となる



オプティキャスト殿 ご意見*

BS再編成に伴い、光ファイバの最大の特徴である広帯域化を計画中であり、BS-IFパススルーの放送導入時でのアクセスライン設備の増設、改修等を要望した際に、設備を共用する全ての事業者毎に対応せざるを得なくなり、新サービスの提供が遅れる可能性が大きい。
また、場合によっては一部の通信事業者からの反対により新サービスを断念せざるを得ない局面に立たされる可能性が生じる。

※「次世代ネットワークの接続ルールの在り方に関する提案募集」(総務省)に対する意見

②NGNの特徴である帯域確保サービスの実現が困難に

■ 当社の帯域制御サーバでは、他社ユーザが利用中の帯域を管理できません。当該サーバで認識している空き帯域と実際の空き帯域に差異が生じ、その結果、その芯線を利用中のお客様全員の帯域が確保できなくなります。

